

## 第 31 回 SPring-8 選定委員会 議事概要（メール開催）

### 1. 日時

2020 年 5 月 18 日（月）から 25 日（月）

### 2. 場所

（電子メールによる開催）

### 3. 出席者（敬称等略）

○電子メール開催による審議を行った委員

佐々木聡（委員長）、内海渉、岸本浩通、木村昭夫、島川祐一、妹尾与志木、竹田美和、月原富武、藤森淳、藤原明比古、村上洋一、山縣ゆり子、山田和芳

### 4. 配付資料（参考資料を除く）

資料選 31-1 2020A 期の利用研究課題及び 2020B 期の課題募集の取扱について(案)

### 5. メール開催の背景

特定放射光施設 SPring-8 では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が懸念される状況を踏まえ、感染拡大防止のための対策として、4 月より新型コロナウイルス感染症関連研究の利用のみを受け入れることとし、それ以外のユーザー利用が停止されている。

そのため、第 30 回 SPring-8 選定委員会（2020 年 2 月 13 日開催）における審議を経て採択され、2020A 期に実施が予定されていたかなり多くの利用研究課題が実施できない状況となった。

このような状況の中で、登録施設利用促進機関である公益財団法人高輝度光科学研究センターにおいて、2020A 期（4 月から 7 月に実施予定）に採択された利用研究課題のうち実施不可となる課題、及び 2020B 期（10 月から 2 月に実施予定）の課題募集の取扱についての対応案がまとまったことから、メール開催により審議を行うこととした。

### 6. 議事

#### （1）審議事項結論

<委員長コメント>

新型コロナウイルス感染症のため、多くの 2020A 期利用研究課題が実施できない状況となっており、その対応を協議した。選定委員会を書面審議の形で開催し、資料選 31-1 の取扱に沿って対処することを承認した。

以下の 1) から 3) にその概要を示す。

1) 2021 年 3 月まで 2020A 期を延長する。

2) 7 月までに実施できない課題を 10 月以降に配分する。

3) 2020B 期の募集は行わず、利用時間に余裕がでた場合には、2020A 期の追加配分をビームラインごとに実施する。

なお、今年度内に実施できない 2020A 期利用研究課題が残っても、次年度へ繰り越さないことを確認した。

また、ユーザーの所属組織ごとに新型コロナウイルス感染症対策が異なることから、ユーザーへの周知を徹底するとともに、ビームタイム配分をフレキシブルに行うことを求める。

<審議結果>

承認：13名

不承認：0名

(2) 審議事項に関する意見等

配付資料の審議事項に対し、委員長及び各委員より下記の意見があった。

1) 2020A 期の利用研究課題及び 2020B 期の課題募集の取扱について

<委員コメント>

- ◇新型コロナウイルスの場合、第二波、第三波への対応が必要になるかも知れません。今後 SPring-8 としての対応の基本的考え方がユーザーにあらかじめ周知される必要はないでしょうか？
- ◇2020B 期は秋から冬にかけて実施されますので、コロナが再発する可能性も少なからず想像しています。もし、そのような事態になった場合に、2020A 期および 2020B 期のどちらでも実験できなかった場合にはキャンセルなのか、2021A 期に繰り越すのか、早めに議論し展開しておいた方が良いと思います。先に知らされておきユーザーに理解してもらっておくと、何かと宜しいのではないかと思います。

[事務局からの補足説明等]

新型コロナウイルス感染拡大の第二波、第三波等により、今年度内に実施できない課題につきましては、次年度への繰越は認めない方針で考えております。ユーザーへ周知する際に、本方針も明記するように致します。なお、2021A 期の課題募集は通常通り行う予定です。

<委員コメント>

- ◇10 月以降に移す課題の一部を 7 月の C から始めることも不可能ではないかと思いますが、作業的に少々大変かと思い、ご提案の日程変更に賛成します。
- ◇各組織ごとの都合や新型コロナ対策基準があると思いますので、ビームタイムアサインはフレキシブルにご対応をお願いできたらと思います。
- ◇世の中の状況を鑑みても妥当な判断だと思います。
- ◇ユーザーの理解を得られやすい丁寧なアナウンスをお願いしたいと思います。
- ◇現状を鑑み、最善の方法であると考えます。

以 上